

一般社団法人日本小児血液・がん学会
第85回理事会議事録

日時:2025年1月24日(月) 10:00~12:00

開催:zoomによるオンライン開催

出席者:米田 光宏、加藤 元博、盛武 浩、家原 知子、上原 秀一郎、大植 孝治、大平 美紀、
木下 義晶、滝田 順子、竹之内 直子、富澤 大輔、真部 淳、山崎 文之、後藤 裕明、
櫻井 英幸、義岡 孝子、余谷 暢之(以上理事)
多賀 崇、滝 智彦(以上監事)

田尻 達郎(第67回学術集会長)、松本 公一(第68回学術集会長)

欠席者:野上 恵嗣(理事)、足立 壯一(第66回学術集会長)、

冒頭に、本日の理事出席者数は理事18名中17名であり、定款施行細則第8条第3項に定める成立定足数を満たしているため、本理事会は成立することを確認し、理事長 米田光宏は議長となり、審議に入った。

I. 前回議事録(案)の確認

議長より、前回理事会議事録(案)、学術集会時総会の議事録(案)が示され、議場にその承認が求められたところ、異議なく承認された。

II. 審議事項

1. 入会申請者の件

庶務・財務委員会の上原担当理事より、現在の会員数の報告とともに入会申請者が示され、議場にその承認が求められたところ、所属不明の医師1名を除き、異議なく承認された。

2. 専門医更新猶予および資格喪失からの回復に関する専門医制度施行細則の改訂について

専門医制度委員会の富澤担当理事より、専門医制度施行細則付則 8 および付則 11 の改訂について資料に示され、異議なく承認された。

改訂されたのは下記の通り

付則8.(専門医・指導医・小児がん認定外科医の更新猶予規程)留学、出産・育児、病気、介護、感染症流行対策等により、専門医(第11条、第12条)、指導医(第15条)、小児がん認定外科医(第19条、第20条)の基準に該当しない者は、更新猶予申請により1年間の更新猶予を認める。なお更新猶予は更新毎に2回まで申請できる。該当者は更新猶予期間中も専門医・指導医・認定外科医の資格を保持する。該当者が更新猶予期間中に受けた研修は認定の更新に利用可能である。

付則11.(専門医・指導医・小児がん認定外科医資格喪失者の再申請と資格回復)理由の如何を問わず、また更新猶予申請の有無を問わず、専門医(第11条、第12条)、指導医(第15条)、小児がん認定外科医(第19条、第20条)の基準に該当しなかったため、専門医、指導医、小児がん認定外科医の資格を喪失したものが、その後の研修により再申請時から5年以内で専門医(第11条、第12条)、指導医(第15条)、小児がん認定外科医(第19条、第20条)の基準に該当するに至ったときは、資格喪失期間に関わらず当該者は再認定申請を行うことができる。同条の基準に該当するに至ったと専門医制度委員会が認めたときは、学会は当該者の資格を回復することができる。なお、専門医、指導医、小児がん認定外科医に再度新規申請を行うことは認められない。

3. 造血細胞移植委員会よりドナーの安全性調査結果公表について

疾患委員会より、造血細胞移植委員会の活動ページに公開している「健常小児ドナーからの造血幹細胞採取に関する倫理指針」について、この指針公開後に実際の安全性について日本造血・免疫細胞療法学会ドナーの安全性(骨髄・末梢血)ワーキンググループと合同で調査した結果を新たに同ページ

へ掲載することが意義なく承認された。

4. 学会誌の投稿論文テンプレートと文字数制限の改訂について

学会編集委員会の加藤担当理事より、投稿論文テンプレートと文字数制限の改訂について資料に示され異議なく承認された。

また今後は、時代に即した形で AI を用いた論文などの対応についても小児科学会の編集委員会で検討予定であることが報告された。

5. 日本小児血液・がん学会の中に緩和ケアを考える場を作ることにについて

余谷理事より、学会の中に小児緩和ケアについて考え活動を行う場として緩和ケアに関わる理事長諮問委員会を設置することが提案され、小児緩和ケアについて考え活動を行う場が必要であるという方向性について承認され、次回理事会へ委員会の規模や具体的な活動などについて提出することとなった。

6. CLIC 謝金の件について

教育・研修委員会の大植担当理事より、CLIC 研修会のファシリテーターに今後本会会員が加わることを受け、共同で開催している緩和医療学会との兼ね合いを考慮し、謝金(1日8,000円、半日4,000円)の支給することが提案され、異議なく承認された。

7. 医学部生向け講義用スライドの提供に関する契約について

教育・研修委員会の大植担当理事より、製薬企業より申し出のあったがんゲノム医療に関する医学部生向け講義用スライドの提供に関して資料に示された。実際のスライドについて委員会審査を経て理事会で審議の上、契約について検討することとなった。

8. 学術集会教育セッションなどの受講証発行について

事務局より、学術集会で行われる日韓シンポジウムや教育セッションのオンデマンド配信の際の受講証の発行の流れを見直し、基本的に視聴終了時に「控え」の発行を行わず、正式な「受講証」を発行するよう変更することが議場に挙げられ、異議なく承認された。

ただし、がん治療認定医機構の新規申請の単位取得のための受講証については、視聴時間の条件を審査するため、視聴直後ではなく、従来通り、後日の発行となる。

9. 日本血液学会との連絡委員会の設置について

滝田理事より、本会と日本血液学会との連絡委員会の設置について提案され、異議なく承認された。また、本会からの委員については、今期は滝田理事、真部理事、富澤理事が推薦され、異議なく承認された。

10. 評議員申請の方式と評議員申請要件の見直しについて

評議員等資格審査委員会の山崎担当理事より、現在郵送で行われている評議員申請について、今後は Web およびメールを使用しての申請・書類提出に移行することが提案され、異議なく承認された。

また、かねてより検討されていた評議員申請要件の見直しについては、今後将来計画委員会で次年度の申請までに見直しを行うこととなった。

11. JCCG と JPLSG の登録データ共有に関して

学術・調査委員会の木下理事より、JPLSG 番号と紐付いた形での本会の登録症例について 2011年に交わした、JCCG(血液腫瘍分科会)とのデータ授受に関する覚書について、現在の運用を確認した上で内容を見直し、契約書を交わすことが確認された。

12. 日本小児血液・がん学会の定時社員総会日程について

2025年度の定時社員総会が2025年6月20日(金)18:30~19:30(Web 開催)の日程で開催されることとなった。

Ⅲ. 報告事項

1. 庶務報告

庶務・財務委員会の上原担当理事より、本会の正会員、評議員、賛助会員等の会員状況について報告された。

2. 学術集会報告

1) 第66回日本小児血液・がん学会学術集会報告

滝田副会長より、2024年12月13日(金)～15日(日)に国立京都国際会館にて開催された第66回学術集会について、参加登録者数が2200名を超える参加登録者数であったことが報告された。1月未まではオンデマンド配信中であるため、最終の参加登録者数については次回理事会での報告となる。

2) 第67回日本小児血液・がん学会学術集会報告

田尻会長より、2025年11月19日(水)～21日(金)に福岡国際会議場にて開催される第67回学術集会の準備状況について、開催形式は「現地+オンデマンド配信」とすること、また、ライブ配信は実施しない予定であることが報告された。

また、現在、プログラム委員会をはじめとする各種委員会と連携して準備中であり、2月には上級演題がほぼ確定となる予定であることが報告された。

3) 第68回日本小児血液・がん学会学術集会報告

松本会長より、2026年11月12日(木)～14日(土)にパシフィコ横浜にて開催される第68回学術集会について、3月の理事会後に運営事務局の選定を行うことが報告された。

3. 委員会報告

1) 利益相反委員会

利益相反委員会の櫻井担当理事より、本会役員及び委員、論文投稿者などのCOI申告について、委員会で申告書のチェックを行い、現在、書類不備および未回答者などについての対応中であることが報告された。

2) 学術集会プログラム委員会

家原担当理事より、12月に開催した委員会について下記の通り報告された。

- ・第66回学術集会における優秀ポスター選定
ポスター座長の採点結果を旧委員も出席のうえで、2月3日のプログラム委員会で審議し、選定
- ・第67回学術集会における上級演題
病理: 針生検についてのパネルディスカッション
一般血液: 血友病などを中心に色々な領域をカバーできるシンポジウム
放射線治療: 陽子線治療に関するセッション
固形腫瘍臨床: 新規薬剤開発または脳神経外科に関するセッション
小児外科: 小児外科医の育成に関するセッション 以上について承認。
※血液腫瘍基礎、血液腫瘍臨床、固形腫瘍基礎については、各担当委員に再検討を依頼。
- ・第67回学術集会における日韓シンポジウム: 移行期医療をテーマとすることを承認。
- ・第67回学術集会事務局より
会長側として神経芽腫のセッションについて海外招待演者を3名として検討。平日開催となることなどが説明された。
- ・日本臨床腫瘍学会との合同企画については長期フォローアップ委員会が担当する(前回理事会決定事項)
- ・二重発表に関する規定
第68回学術集会からの適用を目指して、検討を進める方針とした。

3)学会賞選考委員会

学会賞等選考委員会の滝田担当理事より、他団体への学会推薦枠の選考基準について内規を作成することが承認されたことが報告された。

4)研究審査委員会

研究審査委員会の大平担当理事より、申請される研究に関わる学会員へのアンケートの実施については理事会承認を得た上で、事務局を通して実施することが確認された。

5)学術・調査委員会

学術・調査委員会の木下担当理事より、研究審査委員会との合同委員会について資料に示され報告された。また、疾患登録データの利活用の申請について、海外や個人など多様化しており、申請内容に合わせて研究審査委員会とも協議を行い、審議を行う方針であることが報告された。

6)教育・研修委員会について

教育・研修委員会大植担当理事より、がんゲノム医療に関して、包括契約を締結したことが報告された。

7)専門医制度委員会について

専門医制度委員会の富澤担当理事より、2025年の小児血液・がん専門医および認定外科医試験試験を9月13日(土)、9月14日(日)に実施することが報告された。

また、日本専門医機構サブスペシャルティ領域専門医への申請に向けて、学会内での説明会を3月3日と27日のいずれも18時～19時に実施することが報告された。

なお、今後の流れとして、次回理事会までに現在作成中の申請資料を提出し、小児科領域サブスペ連絡協議会での検討を経て日本小児科学会理事会に諮り、その承認後にサブスペ連絡協議会を通じて機構に申請することが報告された。

8)社会・広報委員会について

社会・広報委員会の余谷担当理事より、学術集会関連のページを改編したことが報告された。

9)保険診療委員会について

保険診療委員会の後藤担当理事より、下記について報告された。

1. コスメゲン供給体制について意見書を提出した。

2. ビーリンサイト在宅投与時の指導料請求について

会員施設からビーリンサイト在宅治療実施時に昨年度新設された「C108-2 在宅腫瘍化学療法注射指導管理料」の算定が認められなかったという事例の相談を受け、関東厚生局に対して疑義照会を行い、回答待ちである。

3. PCR-MRD 検査施設認定

ALL のPCR-MRD 検査について、検査施設認定申請書が名古屋医療センター、BML、SRL、LSI メディエンスから提出された。保険診療委員会で審議を行い承認した。

10)国際委員会について

国際委員会の真部理事より学術集會会期中に委員会を開催したことが報告された。

11)理事長諮問委員会について

米田理事長より、下記の通り報告された。

・将来計画委員会:第2回委員会を1月29日に開催予定である。

・長期フォローアップ・移行期医療委員会:2月1日に第3回研修会、3月15日にアドバンス研修を開催予定である。

・女性医師活躍支援委員会:2月12日に委員会を開催予定である。

IV.理事長報告

米田理事長より、本年も例年に引き続き、ゴールドリボンウォーキング2025の後援を承認したことが報告された。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、出席した理事長及び監事がこれに記名押印又は署名する。

令和7年1月24日

日本小児血液・がん学会 第85回理事会

理事長 米田 光宏

監事 多賀 崇

監事 滝 智彦